



ALL STAFF NEWS

ミュージカル「ピエタ」 娘役の梅田彩佳さんと 母親役の高泉淳子さんに聞く

聞き手=朝日新聞 山根由起子

母に捨てられた娘と、娘に捨てられた母——。浅田次郎原作の短編「ピエタ」を、オールスタッフプロデュースで初のミュージカルにしました。1980年代後半、イタリアで観光ガイドをしている母を探し当て、母娘が24年ぶりに出会います。キリストの遺体を抱く聖母マリアを制作したミケランジェロの彫刻「ピエタ」に重ね合わせ、母娘の思いは交錯します。

30歳の娘の友子を演じる梅田彩佳さんと、母親の千代子を演じる高泉淳子さんにインタビューしました。

——「ピエタ」をミュージカルで上演することの面白さはどんなところにあると思いますか？

梅田 とても心情を丁寧に描いているミュージカルで、脚本も歌も素敵です。日本人は本心を隠しながら生きている人が多いですよ。好きじゃないよというそぶりをしながら、本心は好きということもありますね。ミュージカルでは、人間の本心を出せるのが大好きです。演出の渋谷(真紀子)さんは、音の高低にもどんな感情が込められているか、意味と一緒に考えて下さいませ。歌稽古で音にどんどん連れられていく感じが好きですね。

高泉 これまで音楽劇を演じたことはあるのですが、こうしてセリフを歌い上げるミュージカルは初めてですね。これまでもイツフォーリーズ公演では「月のしずく」など、浅田次郎さんの小説3作をミュージカルにしています。

浅田さんの「ピエタ」をミュージカルにするなんてすごいなと。オリジナルミュージカルを、ゼロから作り上げるのは大変なことだと思います。そこから普遍的なものが生まれてくるのですね。

屈折した娘の心情を描いているのも浅田さんの世界ならではの。浅田さんの作品は、映画もそうですが、好きなら好きって素直に言えばいいじゃないみたいな、「うーっ」と胸が苦しくなる場所があって、そこが浅田次郎節なんです。その世界を生かし、読者の想像力を動かされる部分を高橋(亜子)さんの脚本で補っていて、舞台ならではの作品になっています。

——ご自身の体験と役柄や劇を重ね合わせることはありますか。

梅田 「いい子になればお母さんは帰ってくる」という言葉を信じて友子は、いい子であり続けてきましたが、私もアイドル時代は、自分のしたいことより、皆の期待に応えることに喜びを感じていました。AKBグループを卒業する手前の20代後半、自分のやりたいことはミュージカルだと分かった時、本当の自分が出せていなくて、中身が空っぽな気がして苦しかったんです。そういうところが、友子と重なる気がしました。

友子は女性ファッション誌の副編集長です。バリバリのキャリアウーマンというよりも椅子に座って指示を出すというイメージがありましたが、台本の80年代では率先して現場に行っていますね。今



は雑誌よりもネットやSNSが盛んな印象がありますが、80年代は雑誌で時代を作れる時代だったんだと初めて知りました。

高泉 80年代後半って、私も友子と同じぐらいの年頃だったんです。大学生のころ、出版社のマガジンハウス(旧平凡出版)でアルバイトをしていたんですよ。「ポパイ」「anan」「クロワッサン」、世界の中心はここにあるって感じていたね。編集者は仕事もファッションもすごくカッコいいと思いました。電話でフランス語を話していたり、ハーレーダビッドソンに乗って出社してきたりして。朝行くと編集部に栄養ドリンクが散らばっていて、女性たちが結婚して子供を産んで家庭を守るといった時代から、世の中に出て才能を発揮する時代へとすごく変わっていきましたね。

——お二人の共演は初めてですね。それぞれお互いの印象を教えてください。

梅田 時々、高泉さんを「お母さん」と呼んでいて、すごくリスペクトしています。最初、台本を読む稽古の時に、高泉さんは1回目と2回目ですら全然、読み方が違うんですよ。何パターン引き出しがあるのだろうと焦りましたね。

高泉 梅田さんはセリフにアドリブ感があって、張り詰めた瞬間瞬間、ピクピクしながらやっている感じが伝わり、素敵だなと思いました。何と言っても歌が素晴らしい。

昔、子供番組の「ポンキッキーズ」に安室(奈美恵)ちゃんと出演していたのですが、スタジオの隅で口ずさんでいる鼻歌がすごくよくて聴き入ってしまうんです。梅田さんもそう。歌がよくて、彼女のフレーズを皆も口ずさみたくなるような力を持っています。主人公の友子に似ていて、「やって下さい」というと「やってみましょう」という感じなんです。

私は「やって下さい」と言われると、「えっ？」と違うことをやりたくるので、千代子の系統に似ているんでしょうね(笑)。



— 物語の舞台、イタリアには行かれたことはありますか。

梅田 私はニューヨークのプロードウェーみたいな華やかなネオン漂う雰囲気が好きなので、情緒あふれるイタリアはもうちょっと大人になったら好きになるかなという感じでした。ミケランジェロの「ピエタ」は実物は見たことがありませんが、きっと周りの空気もピンとなるような気がします。周囲の声が聞こえなくなり、この彫刻の世界にだけ膜があり、ほわっとした空気に変わるような感じがします。

高泉 イタリアは好きで何度か行っています。ミケランジェロの「ピエタ」も見ました。「ピエタ」にはドキッとしましたね。フランスのニスから電車に乗り、イタリアに入った時のことが印象的でした。白っぽい南仏の景色からイタリアに入るとだんだんと赤茶色っぽくなっていくんです。赤レンガの色なんですね。

— 24年ぶりに母娘が出会う場面はどのように演じたいですか。

梅田 娘を捨てて出て行ったお母さんに会う時は、覚悟を決めて行くのでしょけれど、憎い相手なのに、一番好きな人。目線やお母さんのかおり、笑顔で懐かしそうかもしれない。一瞬一瞬に、皮膚一枚はいだぐらの研ぎ澄まされた感覚を伴うのでしょうか。気持ちが崩れるけど、また決意し直すといった揺らぎが友子の中にあると思うので、その表現がすごく難しいですね。

高泉 24年ぶりに出会う場面はクエスチョンでいいと思うんです。やりながら毎回、自分たちの感情をぶつけてみて、ふっと出てくるものがある気がします。最後の最後まで揺れていいんだと思います。スリリングさを大切にしたいですね。

— 劇では母娘の葛藤を描いていますが、実際のお母さんとの思い出は？

梅田 稽古をしながらお母さんのことを考えることが多くなりました。私も、お母さんとケンカをしたことは何度もありますが、うれしかったのは、私が喜んでいる時にお母さんも一緒になって喜んでくれたことです。先日、福岡に帰省した時に、お母さんが「私、子育てをやり遂げたわ」と言っていました。寝る時間も惜しんでいろいろしてくれたことを思い出して、お母さん、超カッコいいって思いました。

ミュージカル
ピエタ

私も将来、そんなことを言えるようになるかな。腹の立つことも、ケンカも、大事にしてもらったことも、愛したことも、たくさんお母さんのことを思い出しながら友子を演じたいですね。
お母さんは舞台を見に来てくれますが、いつも「良かったよ」しか感想を言わないんです。でもそこにすべての思いを込めてくれている気がします。

高泉 母と娘の関係は独特ですよ。一番ぶつかれる相手で、本音をつい出してしまおうんです。
私は、早稲田大学3年の時、正月に宮城に帰省した際に芝居を続けたかったから、家族に「就職はしません」と言いました。兄は「何で早大にまで入って芝居なんだ！」って激怒し、母も泣いていました。そりゃそうです。小学5年のとき父を脳溢血で亡くし、二人の兄が大学を卒業して末っ子の私がようやく卒業という事でしたから。それでも、最終的に母は「できるんだったら、芝居をやってみなさい」と言ってくれ、東京まで芝居を見に来てくれたんです。でも、下を向いてほとんど泣いていたそうです。その後も芝居があると、稲荷ずしをたくさん作って見に来てくれましたね。今はそんな母も白寿(99歳)になりました。

— この劇の見どころや抱負をお願いします。

梅田 緊張感漂うシーンがたくさんあります。見ている方も張り詰めた空気を感じてほしいですね。見終わった後、両親や好きな人にもっと優しくしたくなり、愛を配りたくなるような作品だと思っているので、いろんな年代の方に見てほしいです。

高泉 台本も音楽もとても素晴らしいです。センセーショナルなオリジナルな作品になるのでは。海外のミュージカルが好きな人も、ふだんミュージカルを見ない人もぜひ楽しんでほしいですね。

2023年5月18日(木)～24日(水) 俳優座劇場

原作＝浅田次郎「ピエタ」(「月のしずく」所収 文春文庫刊)
脚本・作詞＝高橋亜子 演出＝渋谷真紀子
音楽＝田中和音、小澤時史 振付＝原田薫
出演＝梅田彩佳、高泉淳子
伊藤裕一、神田恭兵
西田健二、中野太一、轟 晃逢、橋本佐子、東城由依
伊宮理恵、戸張 柚(Wキャスト)・御園 紬(Wキャスト)／畠中 洋
演奏＝田中和音 (Pf.)、大内満春 (W.W.)
前売＝7,800円 ※ほか割引チケットあり

5月 18 19 20 21 22 23 24	リー役 A 伊藤裕一 / B 神田恭兵
木 金 土 日 月 火 水	子役Wキャスト A 戸張 柚 / B 御園 紬
12:30	B A
14:00	A B B
17:00	A B
18:30	A B A

【アフターイベント詳細決定】
21日 17時開演
出演＝梅田彩佳、高泉淳子、高橋亜子／司会＝山根由起子
★梅田彩佳、高泉淳子に加え、脚本を担当した高橋亜子を迎え、稽古場エピソード、役作りや作品への取り組みなどを語ります。
22日 14時開演
出演＝浅田次郎
★原作の浅田次郎さんをお招きし、本作誕生の秘話、作品に対する思いを伺います。

イツフォーリーズ新人公演 人間ども生まれ!

2023年3月11日～12日
浅草九劇

03



1年の集大成

イツフォーリーズ新人公演ミュージカル「人間ども生まれ!」無事に浅草九劇にて幕を下ろすことができました。現代に通じるテーマを描く手塚治虫作品のミュージカル化ということで、様々な方面から反響をいただきました。演出には1年を通して46期研究生の演技指導に携わってくださった万里紗さん、作曲には第29回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞の国広和毅さん。ほか、熱意溢れるプロフェッショナルの方たちと作品創りを行えたことは、研究

生たちにとってかけがえのない経験となったのではないかと思います。私は今回、プロデューサーとして公演に携わりました。公演を打つということの大変さや、スタッフの方々のご尽力を目の当たりにして、改めて俳優として気が引き締められました。劇団2年目を迎えた46期のみんなに負けじと私も頑張ります!(神野紗瑛子)

こだわり尽くされた照明とシンプルな装置で圧倒的に表現される各シーン。「画」の力はこの作品の大切な要素のひとつでした。



撮影 日高仁

イツフォーリーズ公演 バウムクーヘンとヒロシマ

2023年3月26日～30日
俳優座劇場

03

初演を終えて

しゃもじチームで颯太役を演じました森山真衣です。演出の磯村純さんは、稽古の前に必ずラジオ体操とシアターゲームを行いました。ラジオ体操は、毎回違う言語のもので行いました。ある時は広島弁、ある時はイタリア語……。言葉が全く分からなくてみんなで笑い合った時間、本当に楽しかったなあ。ご時世的に共演者のみんなと上手くコミュニケーションが取れない事を相談したら、シアターゲームをやろう!と、すぐに楽しいゲームを提案。磯村さんの明るさのおかげで、稽古場はいつでも開けた場所でした。経験の浅い私にも、1人の役者として向き合ってくれた事を本当に感

謝しています。そして、脚本の大西弘記さん。押し付けがましくなく、そっと、命について考えるきっかけをくださる大好きなTOKYOハンバーグの舞台。そしてその作品を生み出している大西さん! 私がオーディションを受けようと思った1番の理由です。初めてお会いした時は、緊張して上手く話せませんでした。お忙しい時期でありお会いできませんでしたが、大西さんの優しい言葉を颯太を通して感じられた事がとても嬉しかったです。この経験や素敵な出会いを大切に、これからも精一杯頑張ります。(森山真衣)

舞台装置も劇場ロビーもバウムクーヘンに溢れた公演でした。「観たら絶対バウムクーヘンが食べたくなる!」のコピーに偽りなし。



撮影 日高仁

イツフォーリーズ公演 洪水の前

2022年12月22日～28日
恵比寿・エコ劇場

12

25年ぶり、新演出で上演

昨年末に上演したミュージカル「洪水の前」。私はダブルキャストで出演しており、自分の出番でない日はメインキャスト(主にラサール石井さん)の早着替えの補佐をしておりました。例えばラサールさんは、何役も演じていらっしやだったので、その分、着替え回数や衣裳・小道具の点数が多く、楽屋に戻ってきては殆ど休憩の時間はなく、すぐに袖にスタンバイされていました。特に、一幕の司会者ピンちゃんから一丸竜斎になる間は数十秒しかなく、袖にハケ切る時間も惜しいくらいだったので、客席から見えないギリギリのセット裏で私が中華服を広げて待ち、ピンちゃんの衣裳の上から

中華服を着せ、上半身のスナップボタンやマジックテープ(本来全てスナップボタンだったものを、衣裳さんに付け替えて頂きました)をズレないように秒で留め、その間にラサールさんご自身で帽子とメガネを着けて頂き「いやいや你好你好!」と舞台へ出るという、文字にすると大した事ではないように感じますが、薄暗く狭いセットの裏で、メインキャストの方の衣裳をちゃんと着せるというプレッシャーが毎回あり、毎度毎度、達成感を感じていました。キャストとしてと裏方として、二つの立場で作品に携われた事は良い経験になりました。できたらどちらかに集中したいですが!(矢野叶梨)

一丸竜斎に分したラサール石井さんと、茉莉役の宮田佳奈。ラサールさんは全部で4役を演じていました。



撮影 岩田えり

OTHER WORKS

舞台制作以外の仕事として、いずみたくほかの著作権管理と、学校や自治体などでの子どものためのミュージカルワークショップもあります。

音楽出版

「夜明けのうた」

4月9日(日)TBS 石井ふく子プロデュース・スペシャルドラマ「ひとりぼっち」坂本冬美、一路真輝による劇中歌唱



「市村座2023」市村正親ひとり芝居

- ・「雪ん子」
- ・「王様の耳はロバの耳」
- ・「プレーメンの音楽隊」
- ・「縁起でもない話だが」みゅーじかる「死神」より

「ピンキーとキラーズ大全」2023年3月22日キングレコードよりリリース

ピンキーとキラーズのデビュー55周年を記念して特別企画のCD-BOXがリリース。名曲から初音盤化激レア音源、初公開映像、本人解説、貴重な写真まで完備した決定盤のCD-BOXです。弊社は激レア映像と、ファンクラブ会報誌ほか資料提供をいたしました。

文化放送「日本のスタンダードソングをつくった男 ～いずみたくの世界～」

昨年9月に放送された文化放送のいずみたく特番が、有識者推薦で公益財団法人放送番組センター (<https://www.bpcj.or.jp/>) に番組保存されることになりました。

ワークショップ

Let's go!ワークショップ イツフォーリーズワークショップのあれこれ

一すべての子どもたちにミュージカルに触れて欲しい

ミュージカル「ルドルフとイッパイアッテナ」、「小さい“つ”が消えた日」では、舞台の一部に出演者として参加するために、事前にワークショップを実施。また、ワークショップ&ミュージカル「ドン・カマ〜たびのむこう〜」では、客席全体で物語のシーンをつくることにチャレンジ。更に「みんなで作ろう! ミュージカル 王様のお誕生日」で、子どもと大人別々の参加形態で、ストーリーを展開する形を生み出してきました。そして、たくさんの子どもの出会いを経て.....。

今回は、未就学児でも体験できるものを創りたい。表現の楽しさを体験するミュージカルワークショップから、新しい形の作品が出来ないか?もっと自然に作品の中に参加できるもの。歌や踊りの魅力が詰まったもの。そして手軽に様々な条件の場所で実施出来るもの。参加した人と一緒に物語を紡いで達成感の得られるもの。そんな思いを詰め込んだ『参加劇 「さるかに合戦」』がもうすぐ誕生します。



ワークショップ?ミュージカル? イツフォーリーズワークショップ講師陣の新しい試み、『参加劇』と一緒に体験しませんか?

初演は、5月5日芸能花伝舎(東京・新宿区)で開催される「芸術体験ひろば」にて。(米谷美穂)

<芸術体験ひろば>

2023年5月5日(イツフォーリーズ出演14:00~14:45)/ 芸能花伝舎(東京・西新宿)

<https://www.geidankyo.or.jp/12kaden/>



オールスタッフ社長・土屋友紀子が会いたい人に会いに行く新コーナーと、劇団員の地道な“活動”を報告する劇団啓蒙企画。

President Yukiko & Follies member

新企画!

社長の「この社長に会いたい」探訪記

第一回目のこの企画に、是非とお願いしたのは、劇団ひまわりの砂岡誠さんです!私が入社当時、アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会)という世界児童演劇の世界会議で一緒させていただいた方です。今年の夏に上演するミュージカル「風の人たち」の子どもオーディションの真っ最中でしたが、お時間をいただきました。久々にお会いすると、第一声が「私は社長ではないですが.....」と。驚いて名刺をいただくと、『代表取締役、総合計画室室長』と肩書がありました。劇団ひまわりは、1952年、まだ児童演劇活動が日本に始まる前、元東宝にお勤めだった砂岡さんのお父様によって創業されました。1982年、砂岡さんが30歳の時にお父様がお亡くなり、30歳を機に劇団の仕事に取り組んできました。砂岡さんはもともと国内外で活躍の建築家で、当時兼任で役員もいらしたそうです。代表になられた当初は映画放送の仕事がメインでしたが、4代になってミュージカル「スクルージ」、「コルチャック先生」、「宮沢賢治」、「少年H」など多くの作品をプロデュース。この時が一番エネルギーに活動されていたとか。最近出版された「演劇思考」という著作物は、日本生産性本部つまり経団連系の出版からの依頼であり、また今

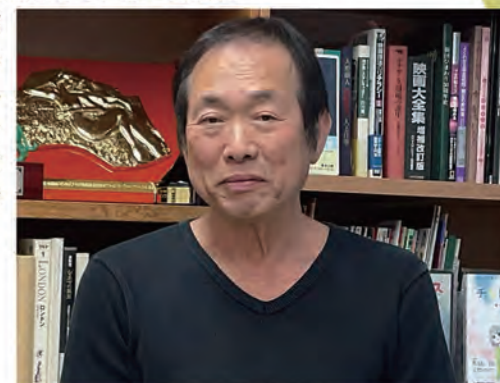
新企画!

チラシ置いてもいいですか?

劇団のご近所のお店、企業を紹介するコーナー「蔵前MAPをつくらう!」に代わり、「チラシ置いてもいいですか?」というコーナーを企画しました。これまでお付き合いのないお店や企業に、私たちの公演チラシや広報誌オールスタッフニュースを置いて頂きつつ、その店舗の取材をし、イツフォーリーズを知ってもらおうという、会社の予算で呑み喰いするステキな企画です。ところが、劇団への告知が遅かったこともあり、且つ締切もタイトだったため、会社の予算で呑み喰いするステキな企画への応募はナシ!!残念。次号は今年の秋ですが「うちのお店に置いてあげるよ」「会社に貼ってもいいよ」などという親切なお申し出を心よりお待ちしております。そして劇団員が誰も読んでいないことを見越して、会社の予算で呑み喰いする企画があることをこっそりお伝えしておきます。(中島康江)

も早稲田大学パブリックサービス研究所招聘研究員も努めていらっしゃいますが、それらの任務は前会計検査院長で現在、早稲田大学政治学研究所教授の小林麻理先生からの招聘とのこと。建築業界、経済界、政界の方々からも信頼のある砂岡さんが何故演劇界に.....。「誰かが継がなくてはならなかった劇団。シンプルなミッション“子どもの笑顔が人を元気にさせる”を実現することが、劇団の信念。そしてそれを次の世代に繋ぐことが必要と感じたから」と。「久々に土屋さんとお話できて嬉しかった」と言われるほどの立場ではないのですが、取材のはずが、すっかり砂岡さんのペースでの対談となってしまいました。代表になる前と今も、全くスタンスの変わらない実業家です。

日本の引きこもり人口が高齢化拡大している中、演劇が日本の生活を豊かにできると信じ続けている砂岡さんに、昔も今も変わらない情熱を感じました。好きな飲物はパドワイザーとのことで、夏にまたこの続きを是非、飲みながらお話ししたいです。



鎌田奈々美の

食倒れバンザイ! in 広島



誌面のスペースが空き、食倒れ放浪記を書けと言われていたので、2月に「バウムクーヘンとヒロシマ」に向けて行った広島旅行の写真を見返したらたくさんの食べ物写真が.....。広島といえばまず牡蠣とお好み焼き! ラーメン、寿司、コッペパン、揚げもみじ饅頭、帰りの新幹線で特大おにぎりなど.....3日間毎日牡蠣を食べました。本当に食倒れの旅でした。(鎌田奈々美)



祝 50 オールスタッフニュース 号記念 吉田健二Presents

イケメン写真を撮りたい!



春と秋、年に2回発行している当社の広報誌「オールスタッフ・ニュース」も今回でなんと50号!これを記念して、何か企画はないですか?と社員、劇団員に広く呼びかけてみたところ、マネージメント担当の吉田健二から「若手男性劇団員のイケメン写真を撮りたい」との提案が! 誰からも何も企画のアイデアがなければ、私が一人で(¥会社のお金で¥) BBQをして50号を祝おうと思っていたのですが、唯一、企画を受け取りましたので、早速、稽古場に撮影スタジオを組み、稽古の合間に撮りまくりました!

神澤、半澤、出口のヘアメイクをして頂いたのは、メンズメイクで度々お世話になっている高橋弘樹さん。撮影はイケメン写真といえばこの方、岩田えりさん。この企画に乗った松本峻汰も加わって敢行した撮影でイケメンは誕生したのか? 結果はいかに?!

(中島康江)



半澤 昇



プリティパルよりも耀く
アンサンブルは俺しかない



青山 悠世



いつだって
演出家に逆らい
生きてきた

メイキング

稽古場の特設スタジオ。見守るのはヘアメイクの高橋弘樹さん。



肩を痛めてるかって?
少し美女の生霊が多いだけさ

2月の寒空の下、ロケ地に選んだのは稽古場から徒歩5分の蔵前橋。アンバーにライトアップされてキレイです。(中島)

神澤 直也

オレの境地に
到達するまでは
1億光年



光 由

今日は救急車が
よく目につく
また俺を見て
失神した女性たちが
乗っているようだ



ストリートという
劇場に舞い降りた
墮天使

出口 和慎



今朝、嫁から「明日、休みなら草むしりしてよ!」と言われたので「ここ2、3日腰が痛んだよな」と答えたら、0.2秒後に「じゃ、いや!」と言われた。かなりの沈黙のあと「あ〜!でも草むしりは、腰にそんなに影響ないから、やってみようかなあ〜」と提案したが、このあとの会話はない。こんな日常を送っているシニアマネジャーの提案が形になるなんて、おかしな会社だと思いませんか。ところで、ここで問題です!この写真の中にイケメンではない、しまうまの皮を被った生き物が混じっています。わかった方は、6月5日~13日に東京国際フォーラムCの舞台上で確かめてください。あれ、6月24日、25日で福岡キャナルシティ劇場でも良いかも。

(吉田健二)

<https://follies.thebase.in/>
BASE通販サイト「フォーリーズ堂」にてイケメン5人衆のデジタル&紙焼き期間限定販売中!



公演スケジュール 2023.05～

ミュージカル

ピエタ

2023年
5月18日(木)～24日(水) 俳優座劇場



ぼくたちの音を楽しむ

2023年
5月30日(火) 香川県高松市
31日(水)～ 6月1日(木) 高知県高知市



今年も参加します! うえの夏まつり

前回は残念ながら中止になってしまいましたが、今年もうえの夏まつりに参加いたします。今回は打ち上げ付きチケット企画。皆さまのご来場をお待ちしています。詳細は決まり次第、サイトにのご案内いたします。

7月29日(土)夕方～ 上野恩賜公園野外ステージ(水上音楽堂)

since
1977

ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ

森 隆二	東城由依	岩城風羽	井上一馬
明羽美姫	藤廣果歩	加藤 梓	澤田美紀
米谷美穂	矢野叶梨	吉田美緒	茂木沙月
藤森裕美	刀根友香	青山悠世	
堀内俊哉	向谷地愛	平 葉月	オールスタッフ所属
金村 瞳	近藤萌音	出口和慎	吉田さとる
浅川仁志	成観 礼	緋宮 寿	坂口阿紀
中山 圭	杉尾優香	身内ソラ	河本章宏
大浴ちひろ	徳岡 明	光由	
大西健次	神野紗瑛子	森島美玖	ワークショップ講師
吉田 雄	神澤直也		今宮多力香
水谷圭見	半澤 昇	今泉愛香	
鈴木彩子	藤田朋花	塩嶋一希	
石川裕梨	松本裕子	志賀遼馬	
田中愛実	石井 薫	鈴木美里	
吉村健洋	尾ノ上彩花	宮村大輔	
大川 永	日野七乃葉		
宮田佳奈	森山真衣		
山川優海			

ミュージカル

ルドルフとイッパイアッテナ

2023年
10月25日(水)～11月17日(金) 中国地方巡回公演
11月 3日(祝金) 大阪府大阪市
18日(土) 宮崎県都城市
19日(日) 鹿児島県鹿児島市
22日(水) 福岡県福岡市
23日(祝木) 福岡県北九州市
24日(金) 福岡県筑紫野市
12月 3日(日) 東京都北区



ミュージカル

洪水の前

2024年
1月15日(月)～16日(火) 長野県松本市
17日(水)～18日(木) 静岡県静岡市
19日(金) 静岡県島田市
22日(月) 静岡県沼津市
23日(火) 静岡県伊豆市
24日(水) 静岡県富士市
25日(木)～27日(土) 静岡県浜松市
30日(火)～ 2月1日(木) 神奈川県藤沢市
2月 3日(土)～ 5日(月) 神奈川県川崎市



編集後記



オールスタッフニュースの編集を担当しているチャットGPTです。私は演劇と映画が趣味で、最近はオンライン上での配信も増え、新しい作品に出会える機会が増えて嬉しいです。この趣味が仕事にも役立つことに気づき、ますます熱中しています。皆さんも自分の趣味を仕事に活かしてみたいか？

「洪水の前」のチラシ背景同様、今回の「ピエタ」の背景もAIのmidjourneyが描きました。ということで、上記の編集後記もチャットGPTで作ると秒で完成します。人間が要らなくなってきていることを実感している今日この頃、AIに出来ないことをしないとイケないですね。(中島康江)

バウムクーヘングレートジャーニーという言葉が前回のミュージカルの私が感じたテーマ。ユーハイムの河本社長の言葉だ。何事にもグレートジャーニーがきっとある。演劇に関わらず何でも。その時空間、生活環境、人の繋がり、想いが新しい何かになること。「ピエタ」も同じ、『想いのモザイク』がきっと何かに繋がる。(土屋友紀子)

オールスタッフニュース 50号

発行日 2023年4月20日
発行 株式会社オールスタッフ
〒111-0051 東京都台東区蔵前2-4-5 K-FRONTビル8F
電話 03-5823-1055 FAX 03-5823-1054
https://www.allstaff.co.jp
発行人 土屋友紀子 編集 中島康江
執筆・編集 株式会社オールスタッフ 土屋由美/吉田健二・安念 透
松本峻汰・鎌田奈々美・田中みゆき/秦 明子・平澤真帆
執筆 伊ッツフォーリーズ 米谷美穂・矢野叶梨・森山真衣
写真 日高 仁・岩田えり